

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
<b>合計</b>		<b>20</b>

事業所番号	1472601317
法人名	特定非営利活動法人 シオン相模原
事業所名	グループホームシオン相模原
訪問調査日	2015年2月16日
評価確定日	2015年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 26 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	147201317	事業の開始年月日	平成12年12月1日	
		指定年月日	平成20年12月1日	
法人名	特定非営利活動法人 シオン相模原			
事業所名	ぐるーぷほーむシオン相模原			
所在地	( 250-0137 )			
	神奈川県相模原市緑区二本松4-8-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者中心のホームで入居者のニーズに沿った計画により外出の機会を多く採り入れて明るく楽しいホーム作りを目指しています。又、健康面でも訪問医療、訪問看護、訪問マッサージなどとの連携を取り、病気や怪我の速めの治療を心がけている。また、近所の方々による協力体制も出来ており避難訓練時にも多くの方が参加して下さい。職員の皆さんも夫々特技を持った方が多く入居者の生活に潤いを与えている。今年あなたはあなたがいてくれてありがとうを言葉に入居者も職員も相手の方を尊敬し合える職場作りを目指したいと思います。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成27年2月16日	評価機関 評価決定日	平成27年3月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●グループホームシオン相模原は、非営利特定活動法人シオン相模原の運営で平成12年12月に認知症の方々が心豊かで残存能力に応じて自立した健康な生活を送っていただけるよう、キリストの教えと愛の奉仕の精神に基づいて支援することを目的に設立されています。</p> <p>●地理的には、橋本駅北口からバスで約8分 最寄りバス停(相原中央)から徒歩5分の少し入り、近くには公園や商店などもある落ち着いた環境の住宅街の一面に位置しています。</p> <p>●事業所理念に「私たちは入居者中心に考えます」と謳い、方針に安心と尊厳ある生活を、キリスト教の精神 愛、喜び、平安、寛容を基本に、一人ひとりの人格を尊重して残された能力に見合った介護計画で自立を支え、住み慣れた生活で地域との関わりを大切に暮らしの支援を行います。と掲げて日々、理念・方針に沿ったサービスが実践されています。</p> <p>●地域との関係では、ホームは自治会に加入していて、地域の祭り、盆踊り等に入居者が職員と共に参加したり、地域のゴミ集積場の掃除も毎日行い、地域の一員として日常的な交流で近所から温かく支えられています。更に、協会と称して組織された町内会の人々にも支援され、地域に密着した交流が行われ、災害時協力でも支援体制が確立しています。</p> <p>●災害時対策として、ホームでは管理者をはじめ、職員全員が防火、防災に注力して災害時対策に取り組んでいます。設備面ではスプリンクラーを始め、消防所への災害通報装置、火災報知機が完備しており、備蓄では非常食料・備品を保有しています。職員の防火防災研修を実施し、入居者を交えて避難訓練も年2回定期的に実施し、非常時に備えています。</p> <p>●サービスの質向上取り組みでは、内・外研修や講習への参加を推奨し、市のグループホーム連絡会主催の研修会にも職員が参加し、研修での学び及び同業者からの習いを日々の介護に活かしています。また、職員の特技の楽器演奏ギター・ウクレレ・オカリナ等で皆で合唱する事で日々の利用者の楽しみを生み出し、サービスの質向上に繋げています。</p> <p>●食事作りでは、出来る人に配膳や食器拭きなど役割を持って加わって頂き、その方に合った形態と季節感のある食事提供で、楽しみながらの食事が入居者のペースで行われています。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームシオン相模原
ユニット名	1 F L

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示し職員が周知しておりみんなで共有している。キリスト教の精神を基本に地域との交流を大切に入居者中心のケアに努めている。	理念に「入居者中心に考えます」と3つの指針、「キリスト教の愛、喜び、平安、寛容」を基本にした支援で、「住み慣れた生活」「地域との交流」を大切にする事を謳って、ホーム内に掲げ、入社時に説明が行なわれています。また、職員間で話し合い、会議で共通の理解を深め、入居者に我が家同然に暮らせる場を提供する介護支援を実践しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を回したり公園の掃除や地域の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方にも声掛けし参加いただいている。ご近所の方から季節の野菜を頂く事もある。	ホームでは天気の良い日は散歩に出掛け、行き交う方々と挨拶を交わしています。また、近所の方から季節の野菜や、花を頂くなど、交流が行われています。さらに、自治会にも加入し、祭りへの参加や回覧板回付、その他、避難訓練などにも参加しています。また、所轄消防署の協力の下、事業所主催の心肺蘇生訓練時には、地域の方の参加も得るなど、日常的に地域交流が行われています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの避難訓練に参加いただき、入居者の誘導のお手伝いをしていただいている。その際に認知症について理解していただけ利用にしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ホームからは活動報告、現況報告を行い地域の方々や入居者の方々の意見交換も行ない、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、シオン相模原協会の会長、二本松町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、入居者代表、副理事長、管理者、職員、相模原高齢者支援センター職員等の参加で、ホームの運営状況、今後の運営に関してや、行事予定などを報告し、質問、意見、提案などを頂きながら話し合いを行い、検討結果は運営に反映させています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緑区生活支援課及び、中央区高齢政策課等との連絡を密にし、入居者の生活に支障がないよう心がけている。	生活保護に関する事案で緑区生活支援課、運営推進会議の件では介護保険課と、さらに、事故報告などでは中央区高齢政策課と、都度連絡を取ってホームの状況報告等も行っています。また、研修などの連絡も頂き、計画的に参加をして区の窓口とは密な交流が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員が研修に参加することにより、身体拘束をしないケアの理解を深め、いかにして自由な空間を提供できるかを、職員会議などで話し合う。	重要事項15と運営規定16条、契約書37条に、「身体拘束はしない、緊急やむない場合も利用者・代理人に説明し、同意を得て対応をする」と謳い、実施状況を記録整備し、職員会議などで話し合い、何が禁止行為に該当するのか、その行為とデメリットを共有認識して廃止に繋げています。玄関の日中施錠は、ご家族の了解の下、防犯上施錠で対応しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがいつでも閲覧できる場所に置いてある。ホーム内で勉強会を行ない理解している。入居者の日々の状態を観察し発見に努めている。また、職員同士が適切なケアを行っているかお互いが注意し合える環境作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度を理解しており必要としている家族や入居者に勧め実際に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時には、契約書、需要事項説明書を読み合わせ、不安や疑問点を尋ね十分な説明をし同意を得ている。玄関にも閲覧できるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランを送付する際、ご家族或いは後見人の方の要望等を、文章にさせていただく様になっている。	入居契約時に重要事項16に記された苦情相談窓口を説明して、運営規定11条・契約書33条に沿って、その対応の説明を行っています。日常的な利用者の苦情は直接聴く様に努め、また、ケアプラン送付時に要望等を文章に記してもらい、また、家族の来訪時に管理者や職員から生活状況の報告と共に、意見、苦情等を聞いています。記録は残し、会議等で検討の上、運営に反映するようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際、必ず職員からの意見を聞くようにしている。日々の中でも意見があれば耳を傾けるようにしている。	職員会議時に発言の場を作り、職員の意見や要望の吸い上げを行っています。さらに。職員間で連絡ノートを利用して提案や意見を出し合い、共通理解の下、運営に反映できるよう努めています。また、管理者と職員間には日頃から気軽に話せる関係が構築されていて、意見や提案を聞いています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は何時も職員が働きやすいように考慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修に参加させ、研修内容を持ち帰り職員会議などで発表し、学びを共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流はまだ出来ていないのが現状である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際に記録した書類を全員に読んでいただき、情報を共有していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の際に家族ニーズに十分耳を傾け、要望に対応出来るように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望に応えられるように努めている。例として日曜日には、親子で教会に行き共に礼拝を持っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶の時間を一緒にもち同じものを飲食しながら過す時間を大切にしている。また、食器洗いやお掃除も一緒に行いお互いに尊重しながら暮らしを共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人とご家族が大切な時間が持てるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や知人の方が面会にこられたら大切な時間を持てるように努めている。	入居者の日頃の会話から、また、言葉が不自由な方とは仕草などで推し量るようにして、かつて住んでいた所・仕事、楽しかった出来事での「今の思い」を知って出来るだけ意に沿得る様に心がけています。友人の来訪や、手紙の投函、電話の取り継ぎ等でも支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケやゲームなどみんなで一緒に楽しめる場を提供している。他の入居者の言動に対して誹謗、攻撃を何とか回避できないかと工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かつて入居されていたご家族から季節の野菜や果物、お花などが届けられている。今のところこちらから支援するような該当者はいません。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の様子をしっかりと見守り心身の状態の把握に努めている。	思いが伝えられる方とは会話から伺い知り、そうでない方には「仕草や表情」からその方の思いを汲み取り、家族等からの情報を加味して押し量り、見守りながら心身の状態にも配慮しています。その上で職員間の共有を図り、「出来る事、出来ない事」を説明して理解をして頂く様にして、出来るだけ思いに適う支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どんな時が楽しいか生活レベルが上昇しているか、下がっているか見守っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	仕事始めに夫々の状況を引き継ぎ一人一人確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて個別会議で夫々問題点をとり上げ検討している。	計画の見直しは通常6ヶ月、短期的には3ヶ月、変化のある場合には都度見直す事を基準にして、職員の日々の観察を基に意見を述べ合っています。家族の意見要望も聞いて2回/月の職員会議で検討し、残存能力に見合った計画を作成しています。また、出来た介護計画は、本人・家族に確認を頂き、結果計画に沿って介護を実施しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録で食事、睡眠、排便、水分などを記録し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、美容院に行ったり買い物の付き添いや、ご家族ができない、病院受診などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や祭りや清掃に参加しホーム外の活動を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療にて入居者が信頼できる形で受診できている。	入居前のかかりつけ医の継続受診か、ホーム契約医の受診かは家族や本人の希望を尊重して決めています。入居前のかかりつけ医希望の場合はホームから必要情報の提供を行い、家族と診察情報を共有するようにしています。ホームでは訪問看護ステーションとの連携を密にし、利用者の疾病に応じて月2回の通院受診はホーム契約医（内科・整形外科・精神科）で支援を行っています。歯科受診は週1回の訪問診療を受けています。さらに、必要に応じて他病院への紹介や他専門科目の受診の支援も行い、適切な医療支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	保門看護師が来所された時に対応する介護職員は、訪問看護師の看護を受けられ易いように入居者の準備などに注意を払っている。また、看護師の質問に答えられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やケアマネージャーが主に医療機関との調整や通院付き添いなどを万全を期して行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者がご家族と調整や説明を行っているが情報は常に介護職員も共有して共通認識を持っている。	重度化・終末期ケアについて、出来ること出来ない事を入居時に家族に説明しています。医師または看護師が終末期と判断した時点で、看取り介護の希望の有無を含め、家族・事業所責任者・医師とで話し合いを行い、合意に至れば覚書を交わし、ホームでの看取り介護を行う方針を持っています。全職員に看取り介護実施の理解・共有を図っています。さらに、意識と知識の向上を深めたいと考えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応が出来るように日頃から必要情報（該当入居者の）をまとめ準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災などの対応、避難誘導、連絡、消化など実践的な訓練を定期的に行なっている。	重要事項10及び運営規定15条契約書34条に、「非常災害に備えて消防計画、風水害、地震等に対処すべく防災計画の策定と定期的な避難訓練（年2回）の実施」を謳い、規定に則り避難誘導路・緊急連絡網の整備と共に、2回/年消防署指導の下に地域の協力会の方々の参加も得て、初期消火と避難訓練を実施しています。非常用備蓄では食料・水、乾電池等を確保します。設備では火災自動通報装置に加え、スプリンクラーがあり、各居室にヘルメットも設置しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を尊重することは、介護に携わる者の最も重要な心構えである。介護職員同士互いにチェックし合うようになっている。	どの方にも人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねることの無い言葉遣いと態度に心がけ、トイレ誘導時にも思いやりと優しさのある呼びかけで支援が行われています。また、失敗の場合にも他の方に気付かれぬ配慮の下に着替え支援が行われています。呼称は本人の希望が採り入れられています。実施に当たり介護職員同士のチェックも行なっています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の要望、願望に耳を傾けて自由に発言できるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも入居者の要望を優先した支援を全員が行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣装の更衣など、常に手助けして外出時などのお洒落が出来る様に支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の定期購入を行っている。入居者の要望も取り入れたメニューの導入の実施と準備のお手伝いや食器の洗浄と拭き作業は行っていただいている。	食料業者からのメニュー付き材料配達を利用しています。調理の下ごしらえや、盛り付け、配膳、下膳、食器拭きなど、出来る人に役割を持って食事作りに加わってもらっています。また、その方に合わせた形態の食事提供で、楽しみながらの食事が入居者のペースで行われています。誕生日や行事日にはケーキや特別食等でお祝いしています。時には入居者の要望に合わせた外食等も取り入れた楽しめる食事支援が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量および水分量のチェックを毎食後行っている。訪問看護師の指示を受けたり、訪問医療による血液検査による栄養バランスチェック等により指示を仰ぎながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々にあった口腔ケアを行っていると同時に訪問歯科による、口腔ケア及びチェックを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの居室にあるトイレを使用しながら、自立支援を行っている。立ち上がりの出来ない方に付いても車イス対応のトイレを使用することにより極力オムツの軽減を図っている。	排泄チェック表を利用して、その人に合ったタイミングの声かけ・見守りの支援で、居室にあるトイレを使用しながら自立支援を行い、オムツのない自立排泄での生活を目指しています。夜間も睡眠の妨げにならない配慮の下に昼間と同様の支援で自立に結び付けた支援を心がけています。立ち上がりの出来ない方についても車イス対応のトイレを使用することにより極力オムツの軽減を図っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食材の使用を考慮している。個々に合わせたリハビリ体操も行っている。又水分の多く取れるようにしている他、医師の指示による下剤も使っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人一人に声かけしながらゆっくりと入浴できるようにしている。体調により清拭にしたり、シャワー浴にしたりと臨機応変な対応をしている。	曜日・時間を決めず、利用者個々の希望と、通院や面会などの予定を考慮しながら、ゆっくり入浴できるよう、柔軟に対応しています。入浴を拒む方にも、時間や人を変えての声かけで促し、無理強いすることなく清拭やシャワー浴も交えて支援が行われています。また、季節のゆず湯、菖蒲湯なども取り入れて楽しみの工夫もしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の常態に合わせてベッドでお昼寝をして頂いたり、ホールでうたた寝をしていただいたり、生活習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを見易い所に置き変更があった場合は引継ぎ時に伝えられるようにしている。また、新しい薬が出来た時にはみんなで観察し記録をとるなどして様子を見ながら状態を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの能力に応じた仕事を持っていただき毎日ハリのある生活が出来るように支援している。又コミュニケーションを採り、歌や散歩、手芸様々なレクリエーションを行っている。近所のボランティアの方にもお手伝いして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理美容院への送迎や買い物の付き添いや希望に応じた外出も行なっている。外出の際には近所の方やご家族に声をかけ同行していただいている。	散歩を希望する利用者が多く、天気の良い日は健康チェックの後、職員とホーム近くの散歩コースをはじめ、買い物の外出も行い、利用者の楽しみとなっています。月1回のペースで近所の方や家族の支援の下、車を使って足の不自由な方も含めた、ドライブと称して県立相模原公園や津久井湖、相模湖、時には箱根にも、季節に合わせた花見なども兼ねて、出掛けています。家族の来所時に併せ、外食・買い物等に出かけられる方もいます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者夫々の能力に応じたお金の管理をして頂いたり、出来ない方については、支援しながら買い物も楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎをしたり、電話を掛ける支援をしたり、不便のないように心がけている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	程よい採光と温度に気を配り、手芸のときに自分たちで作ったものを飾りして季節感を楽しんでいただいている。	玄関ホールを始め廊下、トイレ、浴室など館内は清掃が行き届き、騒音や異臭なども無く、コミュニティホール兼食堂の大きなガラス戸からの採光が良く明るいです。ホールには、テーブルの他、ソファも置かれ、利用者は思い思いに寛いで過ごしています。居室に続く廊下壁面にはイベントや入居風景の写真が貼られています。鉢植えの緑が季節と安らぎを演出しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	この合った方と隣同士座って頂いたり同じ趣味のある方とカラオケや歌を楽しんでいただくと気配りをしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな家具の持込や本人が大切にしているものを持ってきていただき、居心地のよい空間作りを目指している。	居室は全室広々とした談話スペースと寝室スペースで構成され、ウォッシュレット式トイレ、クローゼット、エアコン、が備えられてカーテン（防災）は好みの色・柄を選択してもらっています。馴染みの深い物をお持ち下さいと入居時に説明し、各部屋にはソファ、姿見や、椅子、ベットと共に家族写真、ぬいぐるみ、さらには仏壇等も持ち込まれていて夫々に思いの設えがされ、更に入口には入居者の顔写真で表札が作られ、自分の家が設えられています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に応じた仕事を持っていただき、出来ない方には、支援しながら字何時した生活が送れるよう工夫している。			

# 目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム  
シオン相模原

作成日 平成27年2月16日

〔目標達成計画〕

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		職員の現状の資質に多少物足りなさを感じる。(入居者あるいは職員間の言葉遣い)	職員のさらなる資質向上を目指す。	外部研修、内部研修	1年間
2		ホームの理念が正しく理解されていないところがある。	理念の再確認 (内容の理解を深める)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の引継ぎ時に理念の唱和をする</li> <li>・職員会議等で意の確認をしていく。</li> </ul>	1年間
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。